

銚子七中
学校だより

坂東太郎

令和元年10月10日
第 18 号

校長閑話

COUNT DOWN 閉校まであと 538日

9月5日(木)早朝より本校に、七中サポーターズ「七星」34名の方々に、学校敷地内の環境整備(草刈り・剪定等)をしていただきました。夏休みの間に雑草が伸び放題になっていたグラウンドはすっかりきれいになり、生徒たちは体育祭に向け素晴らしい環境の下、練習に励むことができました。そして21日の体育祭は、幸運にも雨は降らずに無事終了し、大成功を収めることができました。作業の合間の休憩中に、サポーターズの方から「私たちは七中の卒業生、この学校には大変お世話になりました。何かの形で恩返しをしないとね。再来年には七中が無くなってしまうことを聞いてからは、その気持ちがより一層強くなったよ。これからは何でも協力するから遠慮なく申し付けてくださいね。」と言われ、目頭が熱くなりました。何歳になっても、母校は心のよりどころです。また、自らのアイデンティティを示すことができるのも母校です。学校の果たす役割は一人一人の人生も支えていることを実感しました。



サポーターズの皆様方の今回のご協力に大変感謝をいたします。有難うございました。

9月を振り返って

○始業式

40日間の夏休みも終了し、2学期はこの始業式をスタートラインに始まりました。始業式では生徒の元気な姿が確認でき安心しました。9月になったとは言え、暑い日は続きました。学校生活のリズムを取り戻すのも大変だったようです。しかし、体育祭の練習が復調のきっかけとなったようです。

○避難訓練

始業式に続き、避難訓練を行いました。訓練に慣れてはいけません。常に緊張感をもって、様々なことを想定しながら実施をすることが重要です。本校の生徒は大変参加態度も良く、毎回避難完了までの計測時間は短縮されています。「備えあれば憂いなし」と言われます。いつでも危機管理意識は保ち続けたいものです。



○体育祭

天候が大変心配され、準備や練習さえもままならない日々が続きましたが、幸運にも雨は降らずに体育祭が無事終了して、何よりでした。

3年生の強力なリーダーシップにより各色組は One Team になったようです。また応援団はニュージーランド、オールブラックスの「ハカ」同様に、大変迫力のある演技をしてくれました。令和元年度の優勝チームは「白組」でした。閉会式の後には No Side。紅白一緒に写真撮影をしていました。



インドはい〜んど！？ ⑩

学校だより第6号に続く、ニューデリー日本人学校での運動会(小学校も一緒なので体育祭という名称)の紹介です。運動会は、日本人会としての運動会でもありました。規模も大きいことから年度当初より日系企業の代表者が体育主任と打合わせをするために何度も来校をされていました。当日は保護者を含め在留邦人の方々が参加し、約600人もの日本人で賑わいました。また在インド日本国大使が来賓で招かれ、開会式には日本国内同様、国歌斉唱がされ、国旗掲揚ではインドの国旗、日本国国旗と日本人学校の校旗が掲げられました。競技種目は日本で行われている運動会と変わりなく、100Mの徒競走、障害物レース、仮装レース、紅白対抗リレー(大人も含む)、綱引きまでありました。しかし綱引きでは船舶係留用のロープを使用した為、競技中に切断してしまうトラブルもありました。昼食は校庭で夫々とりましたが、カセットコンロを持ち込み、鍋やBBQをする家族やグループもありました。1日かけての盛大な楽しい行事でした。

